

# 付着生物ラーバ情報

## 1 ラーバの出現と付着状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

### (1) ユウレイボヤ(通称:ハナ)

ラーバは見られていません(図2)。

### (2) キヌマトイガイ(通称:コメガキ)

ラーバは久栗坂沖で6.7個体/m<sup>3</sup>、川内沖で39.8個体/m<sup>3</sup>見られました。

### (3) オベリア類(通称:クサ)

クラゲは見られていません。

### (4) アミクサ(通称:クサ)

小枝は久栗坂沖で0.6個/m<sup>3</sup>、野辺地沖で0.8個/m<sup>3</sup>見られました。また、11月7日～12月14日まで久栗坂沖で実施した付着基質調査でも見られました。

### (5) マボヤ

ラーバは久栗坂沖で2.8個体/m<sup>3</sup>、川内沖で0.8個体/m<sup>3</sup>見られましたが、卵は見られませんでした。

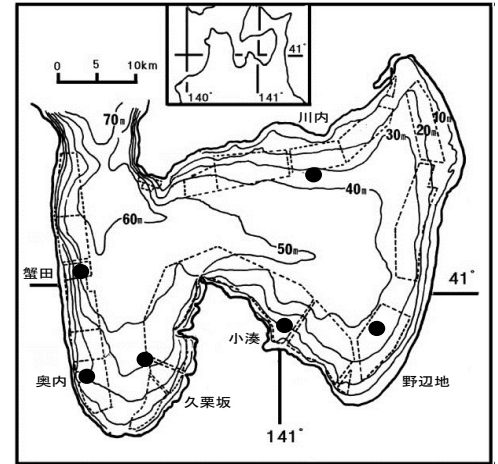


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

単位: 個体/m<sup>3</sup>

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	マボヤ	キヌマトイガイ	オベリア類	アミクサ小枝
久栗坂沖	H29.12.14	0.0	1.1	2.8	6.7	0.0	0.6
野辺地沖	H29.12.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
川内沖	H29.12.14	0.0	0.0	0.8	39.8	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

## 2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温が6～13℃台に低下しています。ユウレイボヤのラーバ出現ピークは、例年11～12月になっていますが、ラーバがほとんど見られていません。10月～翌年3月までの久栗坂沖の累積ラーバ数が10個体/m<sup>3</sup>以下であれば分散済みの籠への今秋の付着は少ないと予測されます。

今後、アミクサ小枝の本格的な出現やキヌマトイガイの付着が始まり、マボヤの付着が進むものと考えられます。オベリア類の付着は年明けになると思われます。

## 3 ユウレイボヤとオベリア類の付着予測

10月～翌年3月までのユウレイボヤ累積ラーバ数(久栗坂)、オベリア類累積クラゲ数(蟹田、奥内、久栗坂)、12月～翌年3月までの青森ブイ水深15m層の平均水温と出荷時期のパールネット1連の付着量の関係を調べたところ、平均水温が8℃以上であればラーバ(クラゲ)累積出現数が多くても付着量が少ないことが分かりました(図3)。

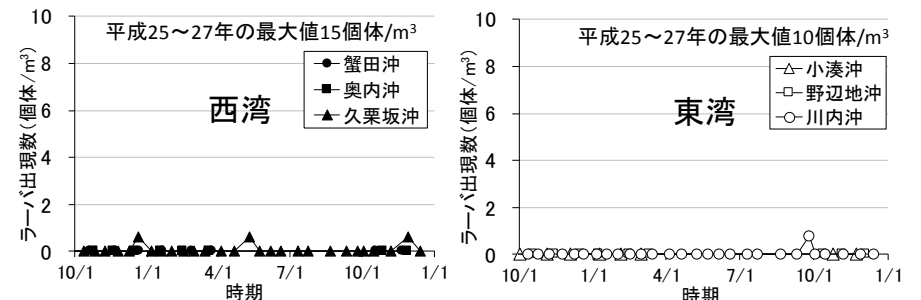


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(平成28年10月～平成29年12月)

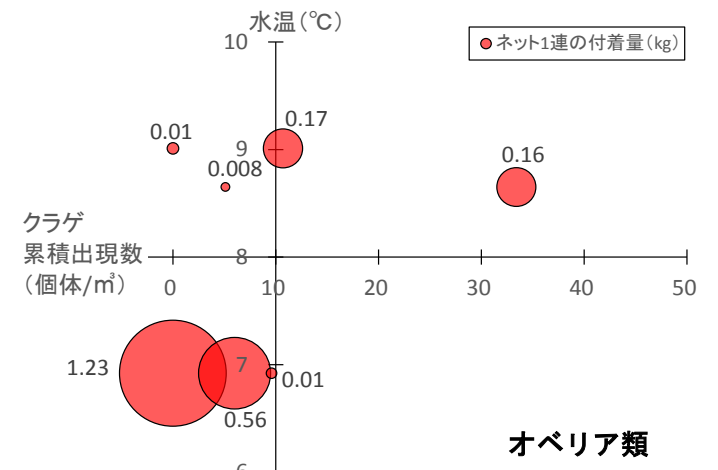
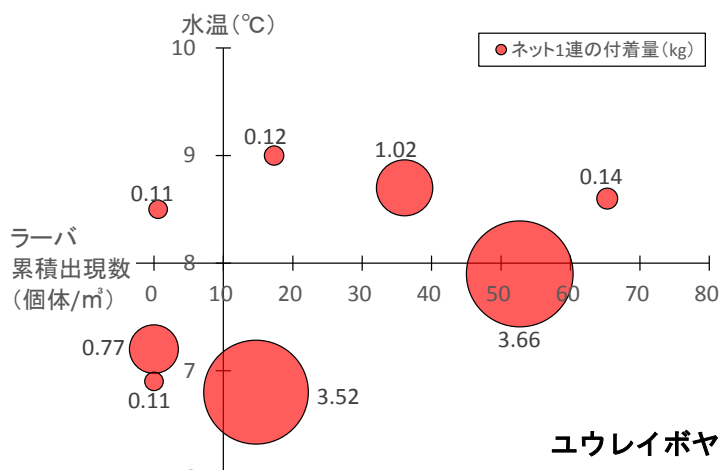


図3 西湾におけるユウレイボヤのラーバ(左図)とオベリア類のクラゲ(右図)の累積出現数、青森ブイ水深15mの平均水温とパールネット1連の付着量の関係(○印の中心はプロット位置、面積は付着量)

